



## THE JUDGING PROCEDURE ジャッジングの手順

ジャッジは最終審査の際に各犬を手で直接確認しながら以下のことを検討します。

### POODLES プードル

- その犬のコンフォメーションやブリードプロファイルに適合したトリムをしているか。
- クリッパーワークの質—足、顔、尾に適切なブレードが使用されているか。顔のクリップのラインがまっすぐで口の周りのクリッパーワークはスムーズで剃り残しがないこと。足は指とパットの間にきれいにクリッパーがかけられていること。
- シザリングの質、統一感、スムーズさ。
- クリップの難易度。これは凝った模様を入れると言う意味ではない。全体のシザリングによるトリムは特定のコートによっては難しくなる。
- 犬の全体的な外観、特にバランス、シンメトリー、仕上げのスムーズさ。ショートトリムのトップノットはスプレーの使用が可能。飾り毛にシザリング、シニングを使用する場合は、その仕事の質。

### HAND STRIPPING ハンドストリッピング

- 使用できるブリードスタンダードプロファイルへ適合したトリムであるか。体のコードが適切な道具あるいは指で丁寧にストリップされているか。
- ストリッピング後にピンク色のはげが出来てはいけなない。毛は毛並みに沿って抜き、痛みを感じさせてはいけなない。特定の場合、カーディングの道具によってアンダーコートを取り除くことは許される。ローテートされたコートも許可される。
- 頭や耳、ネックの前、後ろ足の内側などのやわらかいコートにクリッパーを用いる場合、これらの個所は丁寧にトリムされ適切なブレードでスムーズに仕上げられていなければなない。
- 犬の全体的な外観、特にバランス、シンメトリー、仕上げのスムーズさ。そのブリードの典型的な特徴をとらえて表現しているか。犬は凹凸がなく、自然に見えるようファーニッシングがブレンディングされ、きれいで、しっかりしたアウトライン描いていること。

### PUREBRED SCISSORING - SPANIELS & SETTERS.

ピュアブリードシザリング—スパニエルとセッター



- トリムの適合性と使用できるブリードスタンダードを構成しているか。
  - クリッパーを使用する場合、クリッピングされている個所は適合したブレードが使われているか、また丁寧でスムーズな仕上がりでまっすぐなラインを描いているか、などの仕事の質。
  - シザリングブリードに対してのシザリング、シニングのスムーズさ、質、統一性。仕上げは奇麗ではさみ跡があってはならない。足のシザリングは均等にされ、犬のバランスを取るのに十分な毛があること。頭部は正しくトリムされバランスがとれていること。シニングばさみを使う際には、その個所はスムーズにブレンドされ、自然な外観であること。
  - 眉や下にさがる髭があるブリードの場合、正しいトリミングでそのブリードの典型的な特徴を強調して表現できているか。
  - ファーニングやフェザーリングがあるブリードの場合、それらは突き出ずにスムーズにブレンディングされているか。
  - スパニエル、セッター、その他ガンドッグやハンティングブリードの背部はクリッピングよりカーディングやシニングされていることが好ましい。\*
  - 犬の全体的な仕上げ外観はバランス、シンメトリー、仕上げのなめらかさが顕著であること。
- 
- 犬を手荒に扱っている競技者がいる場合はジャッジが警告する場合がある。2度目の警告で失格となる。
  - クリッパー焼け、傷、切り傷を付けた場合は厳しいペナルティが課せられる。
  - ジャッジに対しての、不作法や過激な言葉は失格につながる。
  - ジャッジは競技中も最終審議中も互いに相談することが許される。
  - 同点の場合、ジャッジはどちらが困難さのレベルが高いかを検討する。
  - それぞれのジャッジが個々の競技者に与えたポイントを合計して順位が決定する。競技するチームの数により、各クラスの最高位の競技者にいちばん多い点数が与えられる。(例えば15チームの場合=15ポイントが1位の競技者に、2位の競技者には14ポイント、3位が13ポイント、と言う風に最下位は1ポイントとなる。)
- 
- ジャッジの決定が最終で決定である。